

**高島町国際交流協会**  
 会長 **安藤 淳 氏**  
 事務局 **大浦 博子 氏**



皆様にも、私も高島町国際交流協会をもっと知っていただきたいと思い、本日参りました。会長の安藤もおりますが、本日は主に私からお話しさせていただきます。

資料は、講話終了後にお渡しいたしますので、前方のスクリーンをご覧くださいと思います。なお、日本語学習支援者養成講座という、外国人が日本語を学ぶためのサポーターさんを養成する講座向けに作成したデータを用いており、ほとんどが9月時点でのデータであることをご承知お願います。私どもが何をしているのか、なぜこのような取り組みをしているのか、を知っていただくために、この3点の視点からお話しいたします。

まずは、1つめ、当協会のあゆみから＝高島町国際交流協会は、平成18年度(年度末の平成19年1月21日)設立しました。今年度18回目の総会を迎えました。ご存知の方も多いと思いますが、当協会の前身は「高島町日中友好協会」です。設立年度は昭和61年、日中間の国交が回復し、残留邦人の帰国ラッシュに始まり、中国訪問や研修生の受け入れなど、日中友好への期待に湧き立っていた頃です。のちに、中国からのお嫁さんも県内に多くやってきました。時代はバブル、私は恩恵を受けていないのですがこの時代背景で間違っていないですか?その後1990年から2000年代に入り、日本経済のグローバル化と周辺諸国の発展など、進展する国際化に伴い、交流の主軸が、中国だけでなく広がりを持つようになりまして、2019年1月を境に、現在の姿となりました。

水色のパーは、高島にほんごボランティアの会です。中国や韓国からのお嫁さんが増えたことで、県内各所で、日本語ボランティア養成講座が活発に展開されました。ここ高島町内でもその養成講座に通った方たち、5名のご婦人たちの手によって、この会が作られました。現在に至っては、受講者の減少・教師の高齢化・後継者の不在・コロナをきっかけとし、解散する会が多くあるなか、高島にほんごボランティアの会は、縮小傾向にありながらも、現在も活動を続けています(先生1名、生徒2ないし3名、冬季休み)。シングルтон、オーストラリア、ニューサウスウエールズ州にあるこのまちとの交流は、ここにはいっしょにいます鈴木征治先生以上に知っている方はおられないと思います。高島ロータリークラブ様とシングルtonもこれまで交流があつと伺っていますので、後ほど鈴木征治先生からお話しさせていただきますと思います。

日中友好協会という名前はなくなりましたが、中国と日本は切っても切れない関係があります。下にあるピンク色の団体は、まほろば日中友好会と言います。2010年(平成22年)に「嗚呼満蒙開拓団」というドキュメンタリー映画の自主上映をきっかけに、その収益金を日中の友好に役立てる目的で会が作られました。設立当時、町内に住む外国人の半数以上が中国出身者。副会長の佐藤安男は残留孤児として43歳で日本に戻ってきた方で、国家賠償訴訟など残留孤児の権利のために先頭に立って活動した方です。2020年12月に83歳でご逝去されました。幾重もの苦労を経験されたことを微塵も出さず自分のことより人の幸せを願う方だったと聞いております。

次に、当協会の会員数の推移と組織図、団体会員となられている団体様・企業様をご紹介します。設立から2年分は資料が探せず空欄となっています。会員については、高島町日中友好協会会員がそのまま引き継がれ、「日中のつばさ」中国に旅行に行った方々が会員になっておられたようです。団体会員数に変化は見られませんが、個人会員は年々減少傾向、日中友好協会の時から入会されていて、高齢を理由に退会される方が近年多いように感じます。

次の章、2番目の日本に住む外国人の変化について。皆さんこのグラフは何を表しているかわかりますか。これは2020年国連が発表したグラフで、移民の世界的な流れを表しています。移民、国連(人口部)の定義では、外国生まれの人のことを指します。出身国以外で暮らしている人々の数は世界人口の3.5%近く、2億7,200万人と報告しています。アジアについては広義のアジア、東は日本西はトルコまで、アジアからアジアへ、欧州から欧州へと、多くは地域内の移動であることが分かります。

日本国内に住んでいる外国人数の推移について、今年6月、出入国管理庁が発表した最新値は322万人を超え、過去最高を記録しました。全体の8割がアジア出身者です。次に山形県内、こちらは山形県庁のホームページから皆さんもご覧いただける資料です。山形は、あっさりベトナムが中国を追い抜きました。去年の値は中国が1位でした。高島町は、僅差でまだ中国が多いですね。数年経つと追い越してしまいうので、10年間で高島に住む外国人も様変わりしたことが分かるかと思えます。

人口に対する外国人の比率は、県0.77%、高島町0.82%、全国2.37%もう少し細かく、在留資格別にみてみましょう。日本に住む、もしくは働くために必要なこの資格については、山形県と高島町に大きな違いはありません。留学生がいるかないかの違いです。ここに表しているのは、今年度、高島町に住んでいる181名の在留資格の内訳です。永住者・日本人の配偶者は減少傾向にある一方、技能実習及び特定技能は(特定技能はコロナを機に技能実習から特定技能へ移行するこ

とができるようになった理由で)伸びています。

在留資格と国籍・年齢の相関関係をここには載せていませんが、永住者は中国・韓国の50・60代女性、技能実習はベトナムをはじめとする東南アジアの方々10代後半から30代前半、主に男性が多いです。

極端に外国人が多い日本のまちを2つご紹介します。ここで質問です、空欄に入る言葉が何かわかりますか?もっと極端な国をご紹介します。UAEは、1960年代から石油産油国として発展、1980年代に入り脱石油に向けたインフラ整備のため大量の外国人労働者を呼び寄せました。元々砂漠地帯の自国民が少ない国、人口ピラミッドは歪な形ですね。

先ほどの国連のグラフ「移民の流れ」に戻ります。こちらの調査ではアジア年間600万人が他の国を目指すとしています(具体的な国名はこの通り)日本はたった全体の6パーセント、これは多いですか?少ないですか?少なければ少ないなりの問題があり、多ければ多いなりの問題があるでしょう。

たまにニュースなどで「選ばれる国になるには」という言葉を見たり聞いたりします。私は高島にいて感じませんが、優秀な外国人欲しさに、ビザ発給の緩和や特典を上乗せするなど、世界各国でこの世にないものを生み出す、インベーションを起こすような優秀な人材獲得のための争奪戦が起っているとされています。また、コロナによってリモートワークが一般化し、世界各国の企業がリモート求人を出しているそうです。十分な質と量の情報、世界基準の報酬が欲しいあなたは、英語で検索しないとその情報を引き出すことはできません。

私どもがお伝えしたいのは、皆様方も肌身に感じていることと思いますが、世界の労働力の移動は時代の潮流であるということです。では、ここからは3番目、私どもの実際の取り組みを紹介します。当協会は、規約第3条で掲げているとおり「町民を主体とした文化・教育・経済・スポーツ等の幅広い分野における国際交流を推進し、多文化や諸外国との相互理解と国際親善に寄与すること」を目的として活動しています。ここ2年は、多くの町民に活動を知っていただきたく、高島町のホームページを使ったり、協会フェイスブックを立ち上げたりして広報活動を行い、交流デーと称した事業も対象者を分けて実施しています。こちらに活動写真を集めましたのでご覧ください(会報誌をそのまま転用しているため小さく見づらい)。

総会時研修、交流デー、外国人と共に活動したものの、シングルton事業への協力(安藤会長も本年度の団長らに向けて情報提供という形で協力しています)今年度は、コロナ解禁の反動で、食べ物にまつわる文化体験が多い年になりましたが、新しい取り組みとして、今年9月から11月の間、山形県国際交流協会助成金を活用して日本語学習支援者養成講座を開催しました。受講者は7名と定員の20名を大幅に割りましたが、みなさん意欲的な方々で、「修了後も勉強を継続したい」「日本語教室があつたら手伝いたい」とアンケートに答えてくださいました。

養成講座最終回と同じ日のお昼をまたいだ時間で、第3回交流デー韓国家庭料理教室を開催しました。こちらは、在留資格でいうところの「日本人の配偶者」2名にご協力いただき、キムジャン、みんなで集まってキムチ作りをするのを言いますが、作業と昼食を体験しました。昼食後のリラクゼーション時間帯に、講師の一人がご自身の経験を話してくださいました。

日本に来てしばらくした頃「みんなにキムチ作りを教えてください」と2度3度お願いされたことがあつたそうです。でも断ったのは今より日本語が下手だったから。それと嫌な思いをしたくなかったから、とおっしゃっていました。

私ども高島町国際交流協会は常々、今ここで働き、生活している外国出身の方々を大切にしたいと思っています。たまたまこの講話前の絶妙なタイミングで、このような話を聞くことができましたが、何事もはじめが肝要だと強く感じました。ひと昔、国際理解とは英語圏の人が対象であり、海外に行った人の話を聞いたり、外に向けての発信が主流でした。でも今は多くの外国人がこの日本で生活をしています。日本にいる外国人こそが国際理解の手立てだと思っています。一人の人間として受容できる社会、いずれ高島を離れてもいい思い出の場所「誰かに教えたくなる土地」になることを私たちは望んでいます。

NHKの訪日外国人の記事ではその根拠が判明できませんでしたが、それを実態のある数値にできればと思います。私どもは、外国の方々との繋がる手段がまだまだ未熟です。特に、技能実習や特定技能の資格をお持ちの外国の方に情報を届ける手立てがありません。

技能実習生にとっては紹介元の組合があるし、例えば、ベトナム人にとっては、独自のコミュニティがあると聞くので、我々のような団体が必要ではないかもしれません。また、私どもが、外国の方たちの課題を十分に把握できていないかもしれません。

Rotary

*Rotary International District 2800*  
 2023～2024  
**TAKAHATA ROTARY CLUB**

 12月7日

WEEKLY REPORT

世界に希望を生み出そう

会長 鈴木 司郎 幹事 高橋 雅明 例会 毎週木曜 12:30～13:30 旅館 エビスヤ 事務局 山形県高島町高島 911-2-2F tel 0238-52-5440・fax 52-5444

本日の例会 [ 2673 th ] 2023. 12. 7  
**図書贈呈  
 例会** 高島町立 屋代小学校  
 校長 **平 千秋 氏**

前回の例会 [ 2672 th ] 2023. 11. 30  
**高島町国際交流協会**  
 会長 **安藤 淳 氏**  
 事務局 **大浦 博子 氏**

- ・ 点鐘 12時30分 鈴木 司郎 会長
- ・ 県民歌 最上 川
- ・ ロータリーソング 奉仕の理想
- ・ ソングリーダー 木村 健彦 君
- ・ S A A 木村 健彦 君

会長あいさつ

鈴木 司郎 会長

みなさんこんにちは。

まず初めに本日のゲストスピーカーをご紹介します。「高島町国際交流協会会長の安藤 淳さんと、事務局の大浦博子さん」です。後ほどご講話をいただきます。

さて、先週の例会はお休みで、2週間ぶりの例会ですが大分期間があいたような気がいたします。11月も今日で終わりカレンダーも1枚残すのみとなってしまいました。

本当に月日の流れが速く感じ会長就任から半年を迎えます。地区大会も無事終わり後半年の任期中ロータリーを存分に楽しみたいと考えております。昨年を振り返ると11・12・1月はコロナ感染拡大が猛威を振るい、私も含め会員の中にも感染した方が多くみられました。当クラブのクリスマスパーティーも中止となり静かなお正月を迎えたことを思い出します。

私事ではありますが今月の24日から27日まで、高島町の観光プロモーションで、深瀬副町長、山村商工会長を含め8名で台湾へ出張してきました。JR東日本と高島町の共催による、台湾在中のインフルエンサー「MEGUMI」さんによる、高島町の旅路のプロモーション発表により、78名の参加者とともに有意義な時間を過ごすことができました。高島

町と台湾の観光、食、人的な交流を今後進めていく事により良い関係を築いていきたいと思えます。

本日のご講話の中でもお話があるかと思われませんが、高島町にも沢山の外国の就労者が来ておられます。ロータリークラブでも何かお役に立つことができたらよろしく願いいたします。

それではお食事をお取りください。

### 《幹事報告》

高橋 雅明 幹事

・11・12日に行われた地区大会の参加礼状が届いております。

## スマイルBOX

・11月24日の山形新聞の「フロントライン」に掲載されました。

山村 義美 君

・ゲストの安藤さんとは三中時代の同級生です。今日はお越しいただきありがとう。

鈴木 司郎 君

・私も関わっている国際交流協会のお話を伺えること嬉しく思います。

鈴木 征治 君

### 《出席報告》

会員数 45名 出席者数 19名 出席率 42.22 %  
 前回修正45名 出席者数 30名 出席率 66.67 %

### 《メーカーアップ》

高梨 正章 君・吉田 弘二 君・大河原 章 君  
 高橋 宏之 君・若林 智次 君・相田日出夫 君

次回の例会 [ 2674 th ] 2023.12.14  
Xマスパーティー  
福美屋